

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成 20 年 3 月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	170202899
法人名	グループホームら・そしあ
事業所名	株式会社 TSヘルスケアネットワーク
所在地	札幌市北区新川1条6丁目3番3号 (電 話) 011-768-6119
評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成 20年 3 月 13 日

## 【情報提供票より】(平成 19年10月 1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 3月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	13.6 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000~25,500円	
敷 金	有( 60,000円 )		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

## (4)利用者の概要(平成 19年 10月 1日 現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	8 名	要介護4	3 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	81.1 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	禎心会病院 ・ ドゥケア歯科矯正歯科クリニック
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、3階建ての2・3階に有し、1階は同一法人の運営するデイサービスとなっています。グループホーム内は全てバリアフリーで、廊下・居間ともに十分な広さがとられ、明るく開放的な造りとなっています。運営推進会議には、利用者も参加し、町内会長や市の関係者等とも活発な意見交換がなされ、当グループホームへの理解や協力が得られています。また、評価結果を踏まえ、現在の取り組みに関して率直な意見をもらうことで、サービスの質の向上に努めています。理念の「安心・信頼・満足する介護サービスの提供」を目指し、タクティールケアの取り入れや、些細な事でも家族との情報交換に繋げてゆく職員の意欲的な関わり等、日々努力がなされています。また、医療面についても、看護師による健康チェックや協力医療機関からも往診に来てもらえる仕組みもあり、家族の安心へと繋がっています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘のあった介護計画の職員間の共有と見直しについては、カンファレンスや申し送りで意見交換や話し合いがなされています。利用者の過去の経験を活かしたケアの取り組みは、センター方式の一部取り入れや、ご家族の協力を得て情報収集し、細かなケアに努めています。緊急時の手当て、職員の段階に応じた研修、注意が必要な物品の管理・保管については、現在も継続し、改善に向け取り組まれています。ご家族への日常の報告では、職員の意欲的な関わりで、きめ細かな報告がなされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議の中で、自己評価の意義を話し合い理解した上で、全職員一人ひとりが自己評価を作成し、管理者と計画作成担当者がまとめ、再度職員会議で話し合われています。自己評価を通して、ケアの見直しや改善の機会とし、これからのケアの質の向上に活かそうとしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されており、利用者やご家族、町内会長、地域包括支援センターの職員、知見を有する者等多数の方々が参加し、利用者へのサービス状況や自己評価・外部評価の結果等を報告し、忌憚のない意見をもらうことで、サービスの質の向上に努めています。また、行事や日々の生活の様子をビデオで報告したり、試食会を開くなど、グループホームを理解してもらうための工夫もなされています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者への日々の声かけ、利用者ご家族への来訪時の声かけにより、気軽に意見、要望が言えるよう配慮がなされています。また、内部・外部の苦情・相談受付に関する掲示や契約書への明記もなされ、運営推進会議においても、要望・助言等を含め話し合いがなされています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、回覧板や定期総会等で情報収集を行い、交流を図っています。また、運営推進会議に参加してもらい、グループホームへの理解や協力が得られるようになってきています。今後さらに、交流を深め、グループホームの行事にお招きできるような検討されています。災害時の協力体制や、外出傾向のある方、散歩時の見守り等についての協力はまだ得られていません。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念「安心・信頼・満足する介護サービスの提供を行う」「不安・不信・不満のない介護サービスの実現」を掲げ、日々実践されていますが、地域密着型サービスとしての理念の見直しは今後の課題となっています。	<input type="radio"/>	法人全体の理念は掲げられていますが、今後、地域密着型サービスとしての理念を再度検討されることを期待します。
	<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時や会議、研修会で取り上げ話されています。玄関やステーション等に掲示し、日々確認しながらケアに反映できるよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
	<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板や定期総会等で情報収集を行い、交流を図っています。また、運営推進会議に参加してもらい、グループホームへの理解や協力が得られるようになってきています。今後さらに、交流を深め、グループホームの行事にお招きできるよう検討されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	<input type="checkbox"/>	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議の中で、自己評価の意義を話し合い理解した上で、全職員一人ひとりが自己評価を作成し、管理者と計画作成担当者がまとめ、再度職員会議で話し合われています。自己評価を通して、ケアの見直しや改善の機会とし、これからのケアの質の向上に活かそうとしています。前回評価で指摘のあった課題については、カンファレンスやミーティング等で話し合われ、危険物の保管方法など具体的な取り組みがなされ、現在も継続的に検討がなされています。		
	<input type="checkbox"/>	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されており、利用者やご家族、町内会長、地域包括支援センターの職員、知見を有する者等多数の方々が参加し、利用者へのサービス状況や自己評価・外部評価の結果等を報告し、忌憚のない意見をもらうことで、サービスの質の向上に努めています。また、行事や日々の生活の様子をビデオで報告したり、試食会を開くなど、グループホームを理解してもらうための工夫もなされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム管理者会議等に参加したり、地域包括支援センター職員や区の保健師と相談や話し合いをし、意見交換をすることで、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の様子や身体状況などを、「便り」やスナップ写真でご家族に報告しています。また、ご家族の来訪時や電話などで細かな報告に努めています。職員の異動、離職については、来訪時に紹介がなされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者への日々の声かけ、利用者ご家族の来訪時の声かけにより、気軽に意見、要望が言えるよう配慮がなされています。また、内部・外部の苦情・相談受付に関する掲示や契約書への明記もなされ、運営推進会議においても、要望・助言等を含め話し合いがなされています。意見箱等の設置はありません。	○	気軽に意見、要望が言えるよう配慮がなされていますが、口頭で言いにくいことを理解し、意見等を表せるよう意見箱の設置やアンケート方式など検討されることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は、異動、離職が多く、利用者のダメージへの配慮に苦労はありましたが、現在、異動は最小限に抑えられ、離職も少なく落ち着いています。交代が生じた場合は、利用者నికిちんと紹介し、ダメージを防ぐように努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講した職員は、内部研修で報告し、職員間の共有を図っています。法人で行われるタクティールケア研修を受講し、日々のケアに活かし、利用者の安心や信頼関係の構築に努めています。段階に応じた研修体制や職員全員の救急救命講習の受講については、今後の課題とし、検討されています。	○	救急救命講習を受けていない職員もいるので、その必要性に鑑み、救急救命講習をなるべく早くに全職員が受講できるよう期待します。また、内部・外部研修会に参加出来ない職員に、資料を配布するなど、工夫されることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市や区のグループホーム協議会の研修に参加し、情報交換を行ったり、他のグループホームへの見学などにより、サービスの質の向上に努めています。また、他のグループホームとの往来を実現に向けて検討中です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者に、出来る限りグループホームを見学してもらい、納得してもらえるようご家族とも相談しています。やむを得ず開始された場合にも、ご家族の来訪を多くしてもらい、時間をかけて状況に応じた対応に努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に花壇の草取りや水撒き、食事の片付け等を行い、利用者との日々の関わりの中で、「生活の知恵」等を学び、支えあう関係を築いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの担当職員を決め、日々の生活の中で、利用者の希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活支援を行っています。ケアカンファレンスやミーティング等を通して、職員間で情報の共有がなされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者やご家族の意向を聴きながら、2週間に1回ユニット会議を行い、介護計画の話し合いがなされています。各担当者からの情報を基に、職員全員の意見交換を経て、作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月から半年に一度の見直しが行われています。又、状況に変化があったときには、都度話し合いを持ち、見直しがなされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・ご家族の希望や状況に応じて、通院、外出等、出来る限りの柔軟な対応に心掛けて支援がなされています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から、月に2回の往診が行われています。かかりつけ医を希望する場合には対応し、受診後のご家族への報告も直に行われています。また、職員全員が情報を共有し、利用者の健康管理に努めています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に、利用者やご家族と話し合いが行われています。また、その状況になった場合に、ご家族と話し合いがなされ、家族と方針を共有する体制になっています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時に個人情報の取り扱いに関する指導がなされています。また、利用者個々を十分に把握し、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、ミーティング等で話し合わせ、ケアの統一が図られています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のリズムに合わせて、ゆったりとした対応がなされています。希望に出来る限り副うよう、支援がなされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるように雰囲気作りがなされています。また、月2回の外食行事の取り入れや、色彩・盛り付けも工夫し、食事を1日の大切な活動のひとつにしています。職員と一緒に、配膳、下膳、後片付けも行われています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の状況や本人の希望を確認し、週3回の入浴ができるよう支援がなされています。異性介助への配慮や拒否される方への声かけの工夫がなされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で、負担なく個々の力を発揮できるような場面作りとして、カラオケやダンスに出掛けたり、外出や散歩、花の水やり等、それぞれの活躍の場を支援しています。また、楽しみ事としてホーム内の季節の飾り物作成なども行われています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	JRタワー見学、百合が原公園散策、水族館見学、北海道開拓の村見学、紅葉見学、サケ科学館見学、外食等外出行事を多く取り入れ、気分転換や季節感を味わうことの支援がなされています。日差しや外気にあたることの大切さや五感刺激を得るための貴重なチャンスとし日々の中で活かされています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの立地上、利用者の安全確保のため、玄関は施錠されていますが、利用者やご家族に説明し、理解を得ています。1階デイサービスの玄関と共用となっていますが、デイサービス職員との情報交換や連携には、至っていません。	○	各ユニット入り口は施錠され、職員の見守りもありますが、起こりうる危険に鑑み、1階デイサービス職員との連携や地域の方への見守りのお願い等、運営推進会議の中で、話し合われることを期待します。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者も数名参加し、避難訓練が行われています。利用者ができるだけ多く参加できるよう、ミーティングで話し合いがなされていますが、地域の協力体制については、今後の課題となっています。	○	非常災害時に地域の方々の協力を得られるよう、運営推進会議の中でお願い、呼びかけが行われることを期待します。また、避難訓練において、地域住民の参加・協力を得て実施できるよう協力体制を構築されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの水分摂取量、食事量などは個別に記録され、職員間で共有されています。利用者の身体状態に応じて、とろみをつけるなど、摂取しやすいよう工夫がなされていますが、栄養バランスや栄養摂取量等の把握までには至っていません。	○	食欲を促すための色彩、盛り付け、食器の選択等を、大切なこと意識しながら支援がなされていますが、栄養についての勉強会や、定期的に栄養の専門的観点から食事の内容を確認することを検討されることを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くゆったりとした居間や廊下、対面で対話のできる台所など、明るく開放的な造りとなっています。また、季節を感じることができる飾り物などがあり、利用者が居心地よく過ごせる空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、利用者個々の使い慣れた家具や飾りものが自由に持込まれ、自分らしく配置されています。		